

エレミヤは諸国民に対しても主の言葉を告げていますが、私の僕ヤコブよ、恐れるな。お前の子孫を捕囚の地から救い出す (46:27) と、イスラエルの回復の預言を始めのほうに挿入しています。



ナイルが逆巻く大国エジプトはバビロンに撃ち破られるが、昔のように、人が住むようになる。

いつまでも静まらないペリシテは災いである。

平穏だったモアブは辱めを受けるが、終わりの日に繁栄を回復する。

豊かな富を誇ったアンモンは滅び、泣くが、やがて人々の繁栄を回復する。

知恵、策略に富むエドムは誰一人住む者はなくなる。

都や町々で栄えたダマスコは捨てられる。

羊やラクダと天幕で暮らすケダル、ハツォル(北イスラエル地方)の諸国は、永久に廃墟となる。

弓や武器を誇ったエラム(バビロン属国)は、怯え、災いを受けるが、終わりの日に繁栄を回復する。

全世界を砕いたバビロンは、滅びの風が巻き起こり、外敵が四方から迫り、滅び、崩れる。

エレミヤは まことに主は仇を返される神 主は必ず報復される(51:56) と全世界を支配し、罪を裁かれる方であると、罪に対して非常に鋭い視線があります。エレミヤ自身に悪をなす人々に主の報復を求めて祈る(18:21)ほど、苦しんだのです。



「哀歌」の著者は不明ですが、王国滅亡の悲哀と悲慘を語っています。著者はエレミヤの口に載せたかのように、私の目は涙にかすみ、胸は裂ける、はらわたは溶けて地に流れると悲しみ、苦しんでいます。愛してやまない故国が破壊され、侮蔑され、飢え、病み、衰え、滅んでいく姿を見て、なにゆえ、独りで座っているのか 人に溢れていたこの都が(1:1)、なにゆえ、主は憤り、おとめシオンを卑しめられるのか(2:1) と嘆き悲しみながら、その理由を問いかけます。そして、破滅は神の裁きであり、主は計画したことを実現し、約束したことをはたされる方(2:17) と神の御心だったと受け止めます。そして、民の苦難は エルサレムの預言者らの罪のゆえ 祭司らの悪のゆえだ(4:13) と指導者たちが信仰を見失った罪が悲

慘を招いたと断じます。神の怒りの杖に打たれ、苦しみ、闇の中を歩きながら著者は言います。わたしの生きる力は絶えた。ただ主を待ち望もう(3:18) と。ただ一つ心に残っていたものは、主の慈しみと憐れみでした。主に望みをおき尋ね求める魂に／主は幸いをお与えになる。主の救いを黙して待てば、幸いを得る。若いときに軛を負った人は、幸いを得る。軛を負わされたなら／黙して、独り座っているがよい。(3:25)

私たちは罪を犯したのだと著者は告白し、罪の結果とその責任を背負って、苦しみながら、償いの道を歩かざるえないと知っています。けれども同時に、なぜ、いつまでもわたしたちを忘れ／果てしなく見捨てておかれるのですか。主よ、御もとに立ち帰らせてください／わたしたちは立ち帰ります。わたしたちの日々を新しくして／昔のようにしてください(5:20) と祈り求めつつ歩く姿を描いているのです。